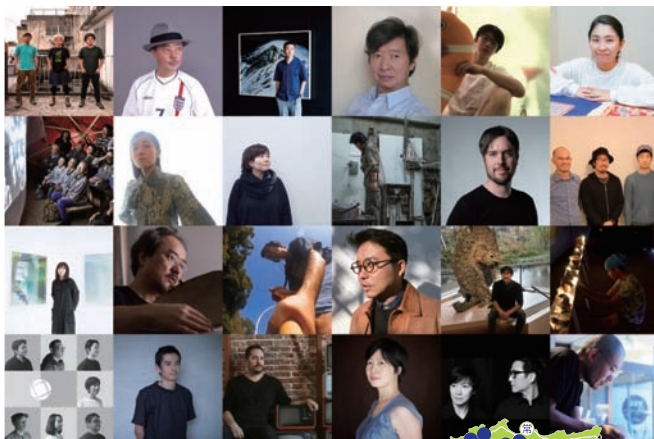


今秋 2021年 9月4日(土) - 10月24日(日) 奥能登国際芸術祭開催

16の国と地域から48組のアーティストが決定しています!

- 青木野枝 (日本)
- 浅葉克己 (日本)
- カルロス・アマラレス (メキシコ)
- 石川直樹 (日本)
- 磯辺行久 (日本)
- 今尾拓真 (日本)
- シモン・ヴェガ (エルサルバドル)
- 大岩オスカー (ブラジル)
- 大川友希 (日本)
- 尾花賢一 (日本)
- OBI (日本)
- 金沢美術工芸大学
- アートプロジェクトチーム[スズプロ] (日本)
- 金氏徹平 (日本)
- 上黒丸「中瀬康志、竹川大介、坂巻正美、
宇土ゆかり、土井宏二」(日本)
- キジマ真紀 (日本)
- キムスージャ (韓国)
- 久野彩子 (日本)
- スボード・グプタ (インド)
- 佐藤真 (日本)
- さわひらき (日本/イギリス)
- 四方謙一 (日本)
- サイモン・スターリング (イギリス)
- デイヴィッド・スプリグス (カナダ)
- 世界土協会 (日本/シンガポール)



- 竹中美幸 (日本)
- 田中信行 (日本)
- カン・タムラ (アメリカ/日本)
- 陳思 チェン・シー (中国)
- 郭達麟 ティラン・カク (香港)
- 涂維政 トゥ・ウェイチェン (台湾)
- 中島伽耶子 (日本)
- 中谷ミチコ (日本)
- 南条嘉毅 (日本)
- カールステン・ニコライ (ドイツ)
- Noto Aemono Project (日本)
- 橋本雅也 (日本)
- 蓮沼昌宏 (日本)
- 原広司 (日本)
- クレア・ヒーラー&ショーン・コーデイロ
(オーストラリア)
- ひびのこづえ (日本)
- フェルナンド・フォグリン (ウルグアイ)
- アレクサンドル・ポノマリョフ (ロシア)
- 三宅砂織 (日本)
- 村上慧 (日本)
- ムン・キョンウォン&チョン・ジュンホ
(韓国)
- 盛圭太 (日本)
- 山本基 (日本)
- 力五山 (日本)



(2021年3月25日時点 / 50音順)



東京珠洲会 笠原英二会長

今年の秋はコロナ禍を乗り越って全国の珠洲会会員、奥能登ファンが交流を深める絶好の機会です。奥能登国際芸術祭とキリコ祭りに、ご家族、友人・知人をお誘いして能登に里帰りをしましょう!!

こらむ

アイデンティティ 49

奥能登で賑わった曳山唄

子供の頃(七〇数年前)田舎なれば、年に唯一の楽しみは祭であった。お宮によってキリコか山車のいずれかの祭礼だった。戸数の少ない生家の在所でも小太りの曳山が出た。神輿の後を曳山が続き、各家の座敷で《きやらげ》が歌い舞うのである。この神の申し子のようなきやらげを体験した。

曳山唄を数詞列記すると、

山車の曳出し「かたびし」

・あや若衆や皆揃うたかよ またもそろたか四つ綱
までも怪我のないよにそろそろと

・高砂の高砂おどりの習いがけ 後ろへ二足前三足
ヨホイトエー

各家で「おとし」

・ああ目出度い こなたの館 鶴は御門で巢をかける
鶴は御門で巢をかけるなら亀はお庭で舞をする

・ああ目出度いわ 此方の館 黄金柱に銀簾
山車曳詰め「かたびし」

・ああ若い衆や山もお目出度曳き詰めて 怪我もな

・ああ若い衆や山もお目出度曳き詰めて 怪我もな
かつたりやよいじゃないか

・ああ若衆や御苦労でございした お神酒すまいて気
をやすめ

アア ヨホイトナー

歌詞は所によって「くどき」など叙事的な詞章やフレーズが数多くある。詞をメロディーに乗せ音曲に節をつけて歌い、囃子、唱和し合う。太鼓の響きと笛の音とコラボレーションすれば、祭は立ち上るのであった。

東京で宴会などにこの唄を歌えば、珍しく所望やアンコールされる。曳山唄には謡曲の浄瑠璃の調べがあつて棄て難い能登人の味合ひ深い心の発露があるのであろうか。(押上武文〈府中市〉宝立町出身)

特別寄稿 能登は心を豊かにする文化遺産の宝庫

弁護士 表 久雄さん (元飯田高校同窓会東京支部長)

能登は、世界農業遺産に認定された自然景観の豊かな「食の王国」であるばかりではなく、「心を豊かにする文化遺産の宝庫」でもある。

正月に京都の料亭から取り寄せたお節料理を御馳走になりながら、「後期高齢者がこんな食に食べていいのだろうか」「ふと、「五観の偈」が脳裏をよぎる。そして、小学校に上がる前後の幼いころのことを思い出した。

一つには「功の多少を計り、彼の来処を量る」。

一つには「」

能登町松波で生まれ、生家は浄土真宗の門徒だったが、その隣が曹洞宗の禅寺だ。

修行の厳しいこの禅寺に、やさしい、高齢の方丈さんがおられた。境内で遊んでいた子供たちを、ときどき本堂に呼んで結伽を組んで坐らせた。そして、そのあとで、本堂の仏前に供えてあったお菓子を下げて食べさせてくれた。戦争の時代で、物資の乏しいころだったから、お菓子の味は格別だった。

しかし、食べる前に唱えさせるのが、「五観の偈」だ。どんな意味だったか、さっぱり分からなかった。

一つには「心を防ぎ、過貧等を離るるを宗とす」

四つには「正に良薬を事とするは形枯を療せんが為なり」

五つには「道業を成ぜんがために」

「この食を受くべし」

それからほぼ半世紀を経た五十代で、後輩の研修担当の責任者をして折のことである。

「鉄舟会」(山岡鉄舟にゆかりのある会で、剣道や坐禅をしていた会)のメンバーだった同僚の発案で房州の「佛母寺」というお寺に研修生たちを連れて研修に行った。そこには、鹿野山禅青少年研修所があつて(今でもあるらしい)、一泊して「坐禅」をした。

翌朝、朝食の朝粥をいただく前に「五観の偈」を唱えさせられた。割り箸の袋の裏に印刷してあつた。子供のころの、あの経験の思い出で、何とか恥をかかなくて済んだ。

そのやさしい方丈さんのいた禅寺は、輪島市門前町の總持寺祖院の末寺の一つだ。

今年、總持寺祖院において、開創七百年の法要を営まれると聞く。總持寺は全国に、末寺寺院一万三千余ヶ寺を擁する曹洞宗の大本山だ。明治三十一年の大火で伽藍の大部分を失い、その折、布教の中心地を横浜市鶴見の地に移されて現在に至ったという。

鶴見の總持寺には、東京珠洲会が発足した当初、珠洲出身のお坊さんが何人もおられて珠洲会に出席されていた。

昭和四四年六月、このお寺で東京珠洲会の物故者の法要を盛大に催したことがある。当日早朝、珠洲会の雑用係をしていたので、鶴見の總持寺の總受付へ出向くと、監院をされていた室峰梅逸老師(その当時、鶴見女子大

学の学長でもあつた)のほか、数名の珠洲出身のお坊さんたちが、「二〇二〇」しながら出迎えてくださった。

能登には、古来、信仰心に支えられた、国内のどの地方にも引けを取らない立派な神社仏閣がたくさんある。また、「あえのこと」「アマメハギ」「キリ」祭り」「でか山祭り」など、「遊びの心」の年中行事が豊富だ。「遊びの心」は古来、日本人の自然観、人生観に流れていて、日本文化の中核になっているといわれている。能登の先祖は、能登を、心を豊かにする文化遺産の宝庫にしてくれたようだ。

「東京奥能登応援団だより」への応援メッセージ

たよりコラム筆者 押上 武文

珠洲市観光大使 中島 盛夫

畑かきどきどきの野菜のよな味合いの応援です。自能登を、よやく愛するやわらい風が吹いてます。たよりなく手作りの紙面が今日もいよいよ絆の連絡船とまいます。 令和三年五月十三日 押上 武文

新型コロナウイルス感染の拡大の中昨年は能登空港へは伺うことができませんでした。一昨年は友人5名で能登空港から輪島に1泊、珠洲に1泊してきました。今年桜の花が咲く4月ごろに伺いたいと思います。能登空港の益々の発展をお祈りいたします。 能登空港応援団 中島 盛夫



1月30日横川石川県東京事務所長激励(中央奥)

横浜・鶴見で横浜石川県人会が「能登物産展」を出店



3月20日テント前に陣取る土田和男氏

二鶴見区長もテントを訪れ、「石川県人会の皆さん、頑張ってください」などと友好交流提携都市の輪島市に配慮してスタッフに激励の言葉を掛けていました。お昼過ぎには客足も増え、売り切れる品が続出し、目論んだスタッフのお土産も残らずほ

態宣言の最中で、常識はずれとも言われそうなイベントに会場スローガンにも表記される「コロナに負けるな」うちメン応援プロジェクト」と称されたイベントは、マスク、消毒、アクリル板は基より、金銭授受トレーを備えるなど徹底した感染症対策を講じての異例な催事となりました。

出展したのは、ハマグルメと称される地元肉や海鮮料理、弁当などと共に沖縄物産などと伍して、輪島朝市の定番、サバ・赤魚の干物、わかめ、練り物など海産物に加え能登すずなりから仕入れたいたけ「能登てまり」や揚げ浜塩、地酒など自慢の奥能登物産を並べて、マスク越しで遠慮がちの呼び込みでした。森健

1月30日(土)及び3月20日(土)横浜市JR鶴見駅東口で鶴見区商店会連合会が主催した「鶴見まんぶく広場」に横浜石川県人会(本田ゆり子代表世話人)は「能登輪島市」と銘打ち連続出店しました。

新型コロナウイルス拡大の緊急事

「記念諸行事」を門前町で開催しています。

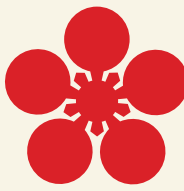
横浜石川県人会の有志は、輪島市での記念行事への参加を企画しましたが、「コロナ禍の好転が見込めず4月行事への参加を断念。8月13日(金)禅の里花火大会、9月の700年記念イベント(ぜんらのきらめき)、10月石川県人会全国大会に焦点を合わせて「ふるさと訪問旅行」を再検討する意向にしています。

輪島市では、大本山總持寺開創700年記念に当たり「禅の里づくり推進協議会」を開設して、平成19年(2007)能登半島地震で被災した大本山總持寺祖院の復興落慶法要をはじめ「記念諸行事」を門前町で開催しています。

このイベントに地元鶴見区民地域活動協会土田和男理事長(珠洲市出身)が何よりも強力な後援者として「能登」法被で登場し、終日顔なじみの方々にふるさとを自慢しながらセールス、飯田高校の後輩の本田代表やスタッフの石糸歌子、八木久美子さんと訪れた飯高同窓生たちは大先輩の警咳に触れたただ最敬礼の二日でした。

「販売の盛況でした。」

今回のイベントで、力を入れたのは「總持寺開創700年」のPRで、販売品の袋に記念ファイルを同封すると、「石川の總持寺のご縁ですよね」と応答があり、さすが鶴見本山の門前町らしい心強い反応に長年鶴見に出店を続けてきたことの成果を感じる幕もありました。



石川県人会 会員募集!

■主な事業
郷土石川県出身又はゆかりの方の集う会です。思わぬ人との出会い、懐かしいなまり言葉に味わい…相互の親睦と郷土愛の高揚、そして地元との交流。

■会員特典
総会・懇親会、ツアー・グルメ・散策などレク・親睦、会報の受領、ふるさと行事案内

■年会費
一般会員 3,000円 法人会員 30,000円

石川県人会連合会全国大会

10/3日 式典：輪島市文化会館
懇親会：サン・アリーナ

5年に1度の全国大会、全国各地の会員らが集い海外からの参加も。石川ゆかりの方の個人参加や地元からの参加も大歓迎のイベントです!!

—関西、東海の珠洲会会員も合流して懇親を深めます—

【お申込み(お問合せ)先】
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3
都道府県会館 14階(石川県東京事務所内)
TEL 03-3556-1414 FAX 03-3556-8113
URL <http://www.isikawa-kenjin.com>
e-mail jimu@isikawa-kenjin.com

キングレコード歌手
ササキホコさん
(東京都江戸川区在住)

プロフィール

北海道出身、
誕生日7月7日

2009年
「能登の岬で」発売

2007年キングレコードからプロデビュー

2013年から4年余マレーシア・ペナンでフラメンコ教室

趣味: フラメンコ、和太鼓、社交ダンス



～奥能登ファン登場～

コロナ収束次第で奥能登旅行記
いざ奥能登へ

＝ササキホコさんのメッセージ＝

平成24年5月作曲家・原先生や民謡グループの三味線、尺八、おはやしの先生ら15人の「キング故郷うたの会」一行で能登に行かせていただきました。珠洲の長寿園を慰問し、夜には泉谷市長さんや地元の民謡グループの方達の交流も楽しかったです!!皆で盆踊りを踊ってとても盛り上がりました。ツアーの最後は能登空港で順番に歌を歌わせていただき、昔の「旅芸人」のようでした。

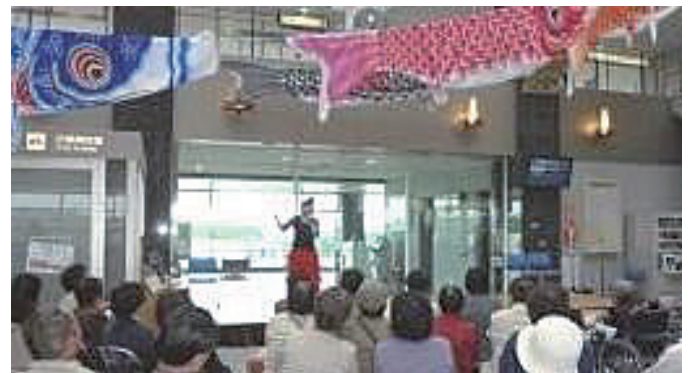
輪島にお住いの作詞家・藤平朝雄先生にスペシャルのガイドをして頂き3泊4日の楽しい旅行でした。賑わう朝市やキリコ会館は圧巻でした。池上家では真紅ののどキリシマツツジが満開で最高でした。今でもおはやしの先生たちと「楽しかったね!また行きたいネ!」とラインでお話をしています。

藤平先生は、能登でお元気な様子です。コロナが収まりましたら民謡の先生方と能登に行ってみたいです!!今はコロナで下ばかり向いていますので、是非夢を持てる企画ができればと祈っています。今年の秋に珠洲会の皆様がふるさとに集われるとお聞きしていますが是非交流の機会がいただければと期待しています。

【ご紹介】

作曲家 原賢一氏の交流から2009年藤平朝雄氏作詞の「能登の岬で」を持ち歌として歌う。そのご縁から東京珠洲会の総会に毎回ゲスト出演。

昨年はコロナ禍で中断。今回当応援団に2012年お仲間との能登旅行の思い出と再度の能登訪問の抱負を語っていただきました。



↑
能登空港で熱唱
長寿園の舞台→
←マレーシア・ペナン島でオーレイ!!



事務局から

新型コロナウイルス感染拡大の第3波の猛威に出されていた政府の緊急事態宣言が3月21日解除されたものの、感染者数が下げ止まりしたままリバウンドが懸念されています。ふるさとへの帰省が憚られるような空気が依然として払拭できないでいます。頼みの綱はワクチンでしょうか。秋の奥能登国際芸術祭には、キリコ祭りも再開されることを心待ちにしています。

〔東京奥能登応援団〕代表/光真 章 副代表/下平 康次



アマビエ